

2020/11/14

(うとQ世話し プライド)

よく言われる「我が国民特有の恥」の正体は自分の観察によれば「プライド」と大いに関係があるような気がしてきました。

英語の場合 pride, be proud of といえば「誇り」とか「誇りに思う」とかを表し、日本語で言う処の「プライド」とは意味を異にする感じがします。

このカタカナ表記の「プライド」或いは「プライドの高さ」といったものが正に我々に特有な感情のような気がするのです。

英語表記の pride, be proud of つまり「誇り」や「誇りに思う」には、そう思うに足る確たる内実があるような感じなのですが、我が国の「プライド」や「プライドの高さ」には、その確たる内実の有無に依らず「お前は俺を尊敬して然るべきだ」とか「貴方は私に傳(かしず)いて然るべきでしょ」というように根拠なく「まずそうしろ(そうしなさいよ)」になっているような感じがします。

「全てはそれからだろ(でしょ)」になっているのです。何故だか。

しかもそれは学歴が高い人ほど、年齢が高い程(ある年齢迄ですが)性別でいえば男性にその傾向が顕著の様に見えます。

何しろ英語表記の pride (誇り)の様に確たる内実の手応えのないまま、形だけそれを繕う(見せ掛けよう)とするものですから、想定外の場面や人物との遭遇で思いもよらぬボロが出るのではないかと人との接触を恐れたり避けたりする様になります。突き崩されては大変だからです。失態を見せる事は「社会的な命取り」になりかねないからです。

なので、安全かつ筋書きのはっきりした落とし処の見える予定調和的な場面にしか行かなくなりません。

そうしてその「筋書きのはっきりした予定調和」内容乃至項目(価値観)は、何故かは分かりませんが、極めて限られた幾つかの項目に絞られており、更に絞られている分その価値体系は微に入り細に渡って規定されており身動きが取れなくなっている様です。

仮にその限られた項目から外れ、新たなものを持ち込もうとすると途端に同調圧力がかかり、従わないと「異端、破壊者」とみなし、或いはその中の細目規定を少しでも踏み外したり飛ばしたりすると「乱暴者、無礼者」のレッテルを張る傾向が強いように思われます。

総合すると「中身は兎も角まずは形だけでも整えなさい」

そうして「理由は兎も角まずは私を尊敬しなさい(傳きなさい)」となっている様に思えてなりません。

だとしたら「この不寛容と高慢」を我々は今後どうやって解消していくのか?

難題です。